

酷暑に挑む米農家 鳥取・田中農場が “気候変動時代”の米作りで守るおいしさ

ー 2025年・酷暑対策の取り組みをご紹介します ー

2025年、田中農場は記録的な猛暑の中でも、美味しいお米を届けるための挑戦を続けています。土づくりから最新技術まで、知恵と工夫を積み重ねて育てた新米は、9月初旬より出荷予定。現在、公式サイトにて予約を受け付けています。

■2025年の米作りの背景 酷暑と気候変動

今年は梅雨明けが例年よりかなり早く水不足が心配される中、さらに連日の猛暑が続くなど、稲作にとって厳しい環境が続いています。近年、高温障害による米の品質低下が問題視される中、田中農場でも苦戦する年がありました。それでも、美味しいお米を届けたい、という思いから今年はさらに対策を強化しています。

① 暑い夏が来る前の準備

・土づくり

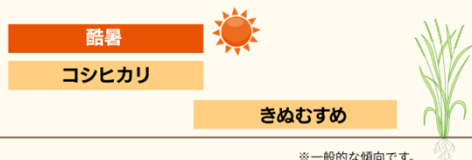
有機たい肥をたっぷり施すとともに、土を深く掘り、通気性と保水性に優れた健全な田んぼをつくります。深く耕すことで根がしっかりと伸び、高温や乾燥によるストレスに強く、水分・栄養を効率よく吸収できる稲が育ちます。



・品種選び

田中農場では、コシヒカリと同等の美味しさを持ちつつ、猛暑でも品質を保てる品種として、きぬむすめを採用しました。きぬむすめは、コシヒカリと比べて穂が出るタイミングがお盆明けと遅めで、最も暑い時期を避けることができるので、猛暑の影響を受けにくい特性を持ちます。

きぬむすめの出穂タイミングは遅く、
酷暑を避けられる



・田植え（疎植栽培）

稲1株ごとの間隔を広くとることで、稲は十分な光と風を受けて健全に育ちます。根や葉がのびのび成長し、暑さによるストレスが少なくなること、猛暑にも強くなることができます。また、風通しが良いため病害の発生も抑えられ、安定した品質につながります。



▼きぬむすめの商品ページ

<https://www.farm-tanaka.jp/shopbrand/kinumusume/>

② 酷暑真っ最中の対応

・ドローンによるミネラル散布

猛暑期は稲が栄養不足になりやすいため、ドローンを使い空からミネラル肥料を迅速かつ均一に散布。重労働を軽減しつつ、稲に必要な栄養をしっかりと届けて、登熟（米の実り）をサポートしています。



動画やブログでも詳しく掲載しています。ぜひご覧ください。

Youtube ▶ <https://youtu.be/tB7TTmtYyq0>

ブログ記事 ▶ https://www.farm-tanaka.jp/blog/2025/06/30/tanaka-farm_interview2/

■お問い合わせ

ダブルノット

有限会社田中農場

〒680-0426 鳥取県八頭郡八頭町下坂442番地

URL: <https://www.farm-tanaka.jp/>

TEL: 050-3198-9749 担当: 谷野（たにの）

<有限会社田中農場について>

田中農場は、鳥取県八頭町の山間で120ヘクタールの圃場で、化学肥料や農薬は極力使用せず堆肥等の有機質肥料を用いた土づくりにこだわり鳥取県特別栽培農産物を栽培しています。



YouTube



ブログ記事